２０２３（令和５）年度

教 職 課 程
自 己 点 検 ・ 評 価 報 告 書

日 本 赤 十 字 秋 田 看 護 大 学

２０２４（令和６）年５月

日本赤十字秋田看護大学

担当
教職課程専門委員会

①	教育理念・学修目標

1. 自己点検・評価

(評価区分)S:取り組みが卓越した水準である。 A:取り組みが概ね適切である。 B:課題があり努力が必要である。C:抜本的な改善が求められる。 D:取り組みがなされていない。 ※該当しない項目については(ー)ハイフン

［大学全体レベル※1］
［学科等レベル］

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	①具体的かつ明確な形で設定されているか	A
		②教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と3つの方針との関係が必要に応じて意識されているか	A
(2)	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	①学生や採用権者の意見の考慮、所在する都道府県・政令指定都市教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	A
(3)	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	①一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果(以下「学修成果」という。)や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか	A

2. 前年度に指摘した問題点

令和4年度自己点検・評価報告書に記載した次年度に向けた課題を記述する。
「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」報告書により、基本的にはすべての到達目標において、継続した向上が見られるが、それぞれ実習の前後、その後の6セメスター調査、8セメスター調査において、異なる推移が見られた。分かっていたつもりのことが、実習を通して実はわかっていないことに気づかされたり、実習で体験した内容をその後の学修で学びなおすことで理解を深めたりしたことが調査結果より明らかとなった。

3. 現状説明

点検・評価項目ごとに、令和5年度の現状(目標設定やその達成のための取り組みを含む)を記述する。	
(1)	「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」をもとに、教員養成の目標に照らし合わせた自己評価がなされ、今後に生かされている。
(2)	秋田県教職キャリア指標(養護教諭)をもとに、教員養成の目標や計画策定のプロセスに生かしている。
(3)	履修カルテや「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」をもとに、学修に対する自己点検・評価を通して、適切な見直しに生かそうとしている。

4. 長所・特色

現状説明の記述を踏まえて、それぞれの項目ごとに、大学として特に取り上げるべき「長所・特色」を記述する。
(1)「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」並びに「教職課程の卒業時の到達目標」に関して毎年度末調査を実施し、カリキュラム評価を主としての集計・分析を行っている。 (2)秋田県教職キャリア指標(養護教諭)をもとに、養成段階における育成すべき教員の資質能力について明らかにし、育んでいる。 (3)履修カルテの評価や「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」をもとに、毎学年末ごとに学生へ自己評価をさせ、結果の集計や分析をもとに養護教諭を育成する上での指導に役立てている。

5. 問題点

自己点検・評価の結果、浮かび上がった問題を「現状説明」を踏まえて、それぞれの事項ごとに記述する。
【課題】 「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」報告書により、基本的にはすべての到達目標において、継続した向上が見られるが、実習の前後、その後の6セメスター調査、8セメスター調査において、項目によっては異なる推移が見られた。座学と実習相互の学びが、学年が進むにつれてしっかりつながり、理解がより深まっていくように留意して指導にあたりたい。 【目標】 到達目標の「人間性」「身に着ける基礎的な能力」「自己研鑽」等において、事前事後指導での学びと養護実習での体験についての結びつきに対する指導を強化することで、さらに望ましい養護教諭の育成につなげていきたい。

6. 全体のまとめ

「教育理念・学修目標」や「授業科目・教育課程の編成実施」といった単位ごとに全体のまとめを記述する。
養成段階における「教師としての使命感と倫理観」、「子供の個性の伸長と自立心の育成」、「教育課程の編成に対する理解」といった視点について、今年度においてもおおむね望ましい成果をあげることができた。今後においても、養護実習における実践を軸に、教職科目や養護の専門科目の学びとつながっていることが意識できる教育課程編成の実施に努めたい。

7. 根拠資料

NO	区分	名称
1	(1)ー①、②、(2)、(2)	履修カルテ
2	(1)ー①、②、(3)	「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」調査報告書(1期生版'22/8/17)
3	(1)ー②	学生便覧
4	(2)	秋田県教職キャリア指標(養護教諭)
5		

日本赤十字秋田看護大学

担当
教職課程専門委員会

②	授業科目・教育課程の編成実施

1. 自己点検・評価

（評価区分）S：取り組みが卓越した水準である。 A：取り組みが概ね適切である。 B：課題があり努力が必要である。C：抜本的な改善が求められる。 D：取り組みがなされていない。 ※該当しない項目については（－）ハイフン

	点検・評価項目		評価の視点	自己評価
［大学全体レベル］	（1）	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	①ICT（情報通信技術）環境（オンライン授業含む）、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか	A
［学科等レベル］	（2）	教育課程の体系性	①法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか	A
			②教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	A
	（3）	ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	①教員として身につけることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか	A
			②到達目標や学修量が適切な水準となっているか	A
	（4）	キャップ制の設定状況	①1単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか	A
	（5）	教育課程の充実・見直しの状況	①学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	A
［授業科目レベル］	（6）	個々の授業科目の到達目標の設定状況	①法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか	A
	（7）	シラバスの作成状況	①教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか	A
	（8）	アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	①授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	A
	（9）	個々の授業科目の見直しの状況	①学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	A
	（10）	教職実践演習及び教育実習等の実施状況	①教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習（学校体験活動含む）は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか	A

2. 前年度に指摘した問題点

令和4年度自己点検・評価報告書に記載した次年度に向けた課題を記述する。
情報設備、機器について、現状の授業運営に不足はないものの、開設6年目を迎え、老朽化も考えられるため必要に応じて検討をする必要がある。また、「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」並びに「教職課程の卒業時の到達目標」調査結果によると、【健康課題に対応する実践能力】【ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力】の項目が他の項目と比較すると低い傾向にある。

3. 現状説明

点検・評価項目ごとに、令和5年度の現状（目標設定やその達成のための取り組みを含む）を記述する。	
（1）	ICT環境としては、学生用コンピュータ室として「OA教室」が整備されている。教室内の情報端末およびプリンタ、関連するサーバが5年に一度の頻度で見直し、更新されている。令和5年度には、学内wifi回線の増設を実施した。また、154講義室に、タッチパネル式の電子黒板を設置し教育実習でのICT機器活用を図った。
（2）	養護教諭一種課程における卒業時到達目標を示し、必要な授業科目が開設それていることを確認するとともに、養護教諭一種課程コア・カリキュラムの履修モデルにもとづき養護教諭一種課程以外の科目との関連性が適切に確保されていることを確認した。
（3）	①養護教諭一種課程にて開講されている各科目においてICTの活用指導に関連する部分においては情報教育担当教員が請け負っている。また、他の教職関連科目においてもICTを活用する際、必要に応じて該当教員がサポートに入り、円滑な講義運営が実施されている。 ②到達目標は、文部科学省に提出した科目目標に基づき、適切な水準となっている。 情報関連科目および教職課程科目内の情報関連部分における学習量は、授業評価調査より、30分から60分程度と判明している。規定の時間通りとなっている。
（4）	授業内容、授業計画、授業方法、事前事後学習についてシラバスに記載し、適切に実施した。
（5）	「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」調査結果をもとに、学修成果を踏まえて教育課程の充実が図られているか確認し、見直しに向けて課題を明確にした。
（6）	個々の授業科目の内容及び方法ついてシラバスに明記している。教員免許取得に適合した教育内容の設定について、文部科学省教職課程モデル・コア・カリキュラム（令和3年）を網羅していることを確認した。
（7）	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を目指し、シラバス記入要領をもとづいてシラバスを作成し、シラバスチェックリストで内容確認した。教員の養成の目標及び目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されている。
（8）	養護教諭一種課程の履修者は1，2年次で20から30名程度、3年次以降は10から15名程度である。講義中、必要に応じ随時ディスカッションが行われている。また、講義終了後は提示されたQRコードからリンクを読み取り、リンク先の回答事項に学生所有の電子機器から入力を行っている。
（9）	「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」調査結果をもとに、個々の学修成果を踏まえて教育課程の充実が図られているか確認した。
（10）	計画に従って適切に実施された。

4. 長所・特色

現状説明の記述を踏まえて、それぞれの項目ごとに、大学として特に取り上げるべき「長所・特色」を記述する。
(1)学生用コンピュータ室や学内Wifiの整備によって、養護教諭一種課程の授業科目に必要な設備は十分に整備されている。電子黒板は模擬授業を実施する際など活用が期待される。 (2)教員に求められる資質能力はその時代背景とともに変化することらも多いことから、実務家系教員による学校現場の実情に合わせた的確な指導が行えるよう役割分担を行っている。 (3)養護教諭一種課程の運営には、情報教育担当教員が関わっている。適宜、ICT活用をサポートしている。到達目標や学修量は適切である。 (4)(6)(7)各授業の開始時にシラバスの周知を図る。また、教育方法として講義・演習・グループワーク・フィールドワーク・養護実習など、学習の定着を図れるよう工夫している。教育実習においては、実習施設ごとの学習内容の差異が少なくなるよう担当教員がきめ細やかな指導を行った。 (5)(9)全学年を対象として年度末に「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」並びに「養護教諭一種課程の卒業時の到達目標」調査結果を実施している。その結果、コンピテンシー並びに養護教諭一種課程の卒業時の到達目標すべての項目でおおむね修得できている(「とてもできる」「少しできる」)ことが確認できた。なかでも、「教員としての養護教諭の実践支える基本能力」「ヒューマンケアの基本に関する実践能力」の修得が高かった。 (7)シラバスの作成においては、各科目における授業目的・到達目標とディプロマ・ポリシー(卒業時に期待される能力)との関連について再検討した。 (8)選択制のため、少人数で授業が行われている。随時、「考える・話す・行動する」の実践が行われている。スマートフォンとQRコードを用いて、教員と学生はコミュニケーションを図っている。 (10)計画に従って適切に実施された。

5. 問題点

自己点検・評価の結果、浮かび上がった問題を「現状説明」を踏まえて、それぞれの事項ごとに記述する。
【課題】 電子黒板を導入したが、利用が進んでいない。教育実習や卒後の学校現場での活用に向けて、講義内容に盛り込むことが望まれる。 「看護系大学で育成する養護教諭のコンピテンシー」並びに「養護教諭一種課程の卒業時の到達目標」調査結果によると、「根拠に基づき個別・集団への支援を計画的に実践する能力」「子供の健康を支える仕組みづくりができる(学校内外の連携)」の項目が他の項目と比較すると低い傾向にある。 【目標】 現状のICT活用状況の取りまとめと必要機材の検討、並びに、「根拠に基づき個別・集団への支援を計画的に実践する能力」「子供の健康を支える仕組みづくりができる(学校内外の連携)」授業内容の工夫等による改善を図る。 今年度購入した電子黒板の有効な活用について、教員研修を企画、実施するとともに、講義内容等にも追加する。

6. 全体のまとめ

「教育理念・学修目標」や「授業科目・教育課程の編成実施」といった単位ごとに全体のまとめを記述する。
情報設備、機器について、開設6年目であることから、今後に向けて見直しを図る必要がある。授業科目の配置や編成について、おおむね適切な状況となっている。また、看護系大学で養成する養護教諭は看護学を基盤として、養護教諭として実践するための「教員共通に求められる実践力」と「養護教諭の専門性に関わる実践力」を習得する必要があるため、看護学部全体のカリキュラム・各授業科目との整合性を図りながら、養護教諭一種課程の卒業時の到達目標を実現できるよう評価と改善を図っていきたい。

7. 根拠資料

NO	区分	名称
1	(1)ー①	OA教室　備品リスト、教職課程実習室　備品リスト
2	(3)-①	教職課程　担当科目一覧
3	(3)-②	情報リテラシー、教育方法技術論　授業評価(学習時間)
4	(4)①、(6)①、(7)①	シラバス
5	(5)①、(7)①、(9)①、(10)①	履修カルテ
6	(6)	文部科学省教職課程コア・カリキュラム(R3)
7	(8)-①	受講人数、QRコード 例
8		

日本赤十字秋田看護大学

担当
教職課程専門委員会

③	学修成果の把握・可視化

1. 自己点検・評価

(評価区分)S:取り組みが卓越した水準である。 A:取り組みが概ね適切である。 B:課題があり努力が必要である。C:抜本的な改善が求められる。 D:取り組みがなされていない。 ※該当しない項目については(ー)ハイフン

	点検・評価項目		評価の視点	自己評価
[大学全体レベル]	(1)	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	①成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか	A
	(2)	成績評価に関する共通理解の構築	①同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか	A
[学科等レベル]	(3)	教員の養成の目標の達成状況(学修成果)を明らかにするための情報の設定及び達成状況	①教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報※2が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか ※2:例えば、卒業時の教員免許状の取得状況や教職への就職状況のほか、所在する都道府県教育委員会の策定する教員育成指標や「教学マネジメント指針」を参考としつつ各大学において設定することが考えられる。	A
			②教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか	A
[授業科目レベル]	(4)	成績評価の状況	①各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか	A
			②公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	A

2. 前年度に指摘した問題点

令和4年度自己点検・評価報告書に記載した次年度に向けた課題を記述する。
地方公務員の定年引上げ制度にともない公立学校教諭等採用候補者の採用予定者数の調整が行われることが予想されることから、就職に危機感、不安感をもつ学生がいることが考えられる。

3. 現状説明

点検・評価項目ごとに、令和5年度の現状(目標設定やその達成のための取り組みを含む)を記述する。	
(1)	単位認定については、大学全体の基準に従い「S・A・B・C・D」の成績評価に加えf-GPAによる成績評価制度を導入している。各科目の単位認定については、総合成績がC以上を合格とし、学長が認定のうえ単位を与える。
(2)	定期的に養護教諭のコンピテンシー・履修カルテの見直しを図り、教員養成の目標及び達成状況を明らかにするための確認を行っている。
(3)	秋田県教職キャリア指標(養護教諭)をもとに、教員の養成の目標の達成状況を検討するとともに、教職課程の卒業時の到達目標を履修カルテに記載し学生に周知している。
(4)	各授業科目の到達目標に照らして達成水準を明らかにしている。また、成績評価に関する疑義に対して適切に対応する準備ができている、

4. 長所・特色

現状説明の記述を踏まえて、それぞれの項目ごとに、大学として特に取り上げるべき「長所・特色」を記述する。

(1)大学全体の基準に従い適切に実施している。
(2)コンピテンシー調査では、年度末に自己評価を繰り返し行うことで、その推移を測定している。コンピテンシー調査では、養護教諭に必要な能力・技術について在学中から意識して取り組むことができるよう、学生の目的意識の向上を図っている。
(3)履修カルテについて、教職科目を履修する1年時より教職科目及び教職に関する学外活動、ボランティア、サークル活動等の状況に関する自己評価・反省を行い、教員による確認を行っている。
(4)複数の教員が分担している科目においても、各授業科目の到達目標に照らし授業内容、授業方法、評価基準、評価方法について共通理解し透明性のある成績評価を行っている。

5. 問題点

自己点検・評価の結果、浮かび上がった問題を「現状説明」を踏まえて、それぞれの事項ごとに記述する。

【課題】
今年度、4年生の秋田県学校教諭等採用試験合格者がいなかったことから、将来の進路、就職に危機感、不安感をもつ学生がいることが考えられる。次年度以降も、地方公務員の定年引上げ制度にともない採用予定者数の調整が行われることが予想されることから、現役生、既卒生の継続的な支援が課題である。

【目標】
公立学校教諭等採用候補者選考試験を受験した学生の合否結果にもとづき、次年度以降の授業内容、採用試験対策の強化を図るとともに、学生の危機感や不安感に対する丁寧にな支援を行い、学生自身が自己実現をはせるよう学生指導を行う。

6. 全体のまとめ

「教育理念・学修目標」や「授業科目・教育課程の編成実施」といった単位ごとに全体のまとめを記述する。

養護教諭一種課程の質的水準の向上の具体策として、平成18(2006)年度中央教育審会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」において、履修カルテの必要性が示されていることから、教職実践演習における活用に留まることなく、養護教諭一種課程4年間の学びを支える教員養成全般に活用する。さらに、養護教諭に必要な能力・技術において、学修成果の把握・可視化の観点から、学生の現状を正確に把握し、長所をより伸ばし、短所を補い強化するということに意識的に取り組む。

7. 根拠資料

NO	区分	名称
1	(1)①	大学学生履修便覧
2	(3)①	秋田県教職キャリア指標(養護教諭)
3	(3)②	履修カルテ
4	(4)①	シラバス
5		

日本赤十字秋田看護大学

担当
教職課程専門委員会

④	教職員組織

1. 自己点検・評価

（評価区分）S：取り組みが卓越した水準である。 A：取り組みが概ね適切である。 B：課題があり努力が必要である。C：抜本的な改善が求められる。 D：取り組みがなされていない。 ※該当しない項目については（－）ハイフン

	点検・評価項目		評価の視点	自己評価
［大学全体レベル※3］［学科等レベル］	（1）	教員の配置の状況	①教職課程認定基準（平成13年7月19日教員養成部会決定）で定められた必要専任教員数を充足しているか	A
	（2）	教員の業績等	①担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況	A
	（3）	職員の配置状況	①教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか	A
	（4）	FD・SDの実施状況	①いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDが確実に実施されているか	A
			②適切な内容※4が実施できているか ※4：例えば教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の共有のほか、「教学マネジメント指針」（Ⅳ）を参考としつつ内容を検討することも考えられる。	A
			③実際に参加が確保できているか	A
［授業科目レベル］	（5）	授業評価アンケートの実施状況	①個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会で活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか	A

2. 前年度に指摘した問題点

令和4年度自己点検・評価報告書に記載した次年度に向けた課題を記述する。
【課題】 特に目立った課題は見られないが、担当教職員の充足の維持、各々における継続的な自己研鑽が望まれる。 また、FDSDでの学びを授業の実践に反映できているか確認できていない。

3. 現状説明

点検・評価項目ごとに、令和5年度の現状（目標設定やその達成のための取り組みを含む）を記述する。	
（1）	必要人数は充足している。
（2）	文科省並びに学内の教員審査を経ており、研究実績並びに実務経験は十分といえる。
（3）	事務局学務課内に担当者を配置し、必要十分な状況である。
（4）	①実施できている。毎年、4,5月に秋田県教育庁から人事担当者を招き実施している。 ②学生とともに「秋田県が求める教師像」や採用の現状などについて説明を受けている。
（5）	各講義終了後に、授業評価を実施している。適宜、教員自身でも学生の振り返り調査を実施している。

4. 長所・特色

現状説明の記述を踏まえて、それぞれの項目ごとに、大学として特に取り上げるべき「長所・特色」を記述する。
(1)基準に沿った必要専任教員数を充足している。 (2)文科省や学内における教員審査を受け、必要十分な研究実績と実務経験を有している。 (3)適切に事務担当者を配置している。 (4)秋田県教育庁から教員採用人事担当者をお招きし、求める教師像や採用、教師としてのやりがいなどについて学んでいる。 (5)授業最終回の授業評価のほか、必要に応じ、授業の振り返り調査などを実施している。

5. 問題点

自己点検・評価の結果、浮かび上がった問題を「現状説明」を踏まえて、それぞれの事項ごとに記述する。
【課題】 特に目立った課題は見られないが、担当教職員の充足の維持、各々における継続的な自己研鑽が望まれる。 【目標】 教職員における充足の維持及び自己研鑽が望まれる。教職科目担当教員の退職に伴い人員を確保し、スムーズな引継ぎを行う必要がある。

6. 全体のまとめ

「教育理念・学修目標」や「授業科目・教育課程の編成実施」といった単位ごとに全体のまとめを記述する。
教職員組織は適切に配置されている。今後は、充足の維持、FDSDの学びの継続等に努めたい。

7. 根拠資料

NO	区分	名称
1	(1)①	教職課程認定基準　※H13 で大丈夫か確認必要
2	(2)①	教員履歴(リサーチマップ)
3	(3)①	事務組織図
4	(4)①②	県教育庁　資料
5	(5)①	授業評価の実施依頼、振り返りQRコードや振り返りデータ

日本赤十字秋田看護大学

担当
教職課程専門委員会

⑤	情報公表

1. 自己点検・評価

（評価区分）S：取り組みが卓越した水準である。 A：取り組みが概ね適切である。 B：課題があり努力が必要である。C：抜本的な改善が求められる。 D：取り組みがなされていない。 ※該当しない項目については（－）ハイフン

［大学全体レベル］

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
（1）	学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	①法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行えているか	A
（2）	学修成果に関する情報公表の状況	①大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか	A
（3）	教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	①根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか	－

2. 前年度に指摘した問題点

令和4年度自己点検・評価報告書に記載した次年度に向けた課題を記述する。
養護教諭一種課程の自己点検・評価に関する情報については、今年度が初年度のため情報公開は行っていない。

3. 現状説明

点検・評価項目ごとに、令和5年度の現状（目標設定やその達成のための取り組みを含む）を記述する。	
（1）	法令に定められた情報公表を行っている。
（2）	卒業者の教員免許状の取得の状況、卒業者の教員への就職の状況等、学修成果に関する情報公表を行っている。
（3）	

4. 長所・特色

現状説明の記述を踏まえて、それぞれの項目ごとに、大学として特に取り上げるべき「長所・特色」を記述する。
(1)(2)適切に情報公開を行っている。

5. 問題点

自己点検・評価の結果、浮かび上がった問題を「現状説明」を踏まえて、それぞれの事項ごとに記述する。
【課題】 養護教諭一種課程の自己点検・評価に関する情報について、引き続き検討中である。 【目標】 養護教諭一種課程の自己点検・評価に関する情報公開について、大学事務局と相談の上決定する。

6. 全体のまとめ

「教育理念・学修目標」や「授業科目・教育課程の編成実施」といった単位ごとに全体のまとめを記述する。
秋田県内で唯一の養護教諭一種免許が取得できる高等教育機関であることから、看護師養成の学修を基盤として養護教諭専門科目を学修することにより、高い専門性を習得することを目指す。また、これからの社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開、実践的指導力を有する教員の育成に重点をおくことなどを示すことにより、養護教諭を目指す学生の意欲向上と大学における主体的な学びにつながる情報公開に努める。

7. 根拠資料

NO	区分	名称
1	(1)(2)	本学HP(https://www.rcakita.ac.jp/faculty/teacher_training)
2		
3		
4		
5		

日本赤十字秋田看護大学

担当
教職課程専門委員会

⑥	教職指導（学生の受け入れ・学生支援）

1. 自己点検・評価

（評価区分）S：取り組みが卓越した水準である。 A：取り組みが概ね適切である。 B：課題があり努力が必要である。C：抜本的な改善が求められる。 D：取り組みがなされていない。 ※該当しない項目については（－）ハイフン

［大学全体レベル※5］

［学科等レベル］

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
（1）	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組	①教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか	A
		②教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか	A
（2）	学生に対する履修指導の実施状況	①必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか	A
		②「履修カルテ」を適切に活用できているか	A
（3）	学生に対する進路指導の実施状況	①学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	A

2. 前年度に指摘した問題点

令和4年度自己点検・評価報告書に記載した次年度に向けた課題を記述する。
教職課程が設置されて5年目、1期生が社会人1年目と言うことで、学生支援に対する情報不足が課題である。

3. 現状説明

点検・評価項目ごとに、令和5年度の現状（目標設定やその達成のための取り組みを含む）を記述する。	
（1）	秋田県・市教育委員会や秋田県教育庁中央教育事務所、並びに、秋田県・市小学校長会、秋田県・市中学校長会に対し、毎年5月に訪問し、教職課程に関する積極的な情報提供を行っている。また、毎年、11月頃に秋田県教育委員会並びに、各市町村教育委員会を訪問し、次年度の実習受けて入れのお願いをしている。適切に学生を受け入れてもらっている。
（2）	常設の教職課程専門委員会において、望ましい教職課程の履修に対して、毎月委員会を開催し、必要な指導体制を確認し、学生への働きかけを行っている。学修を重ねる度に学生は履修カルテに記載し、毎年度末指導教官による確認と指導を行っている。
（3）	学生相互の活動として、例年7月（教職課程を視野に入れている2年生と1年生）と、2月末（教職課程の4年生と、同3年生、教職科目を受講している2年生と1年生による希望者）に学生交流会を計画した。7月については、自然災害のため実施できなかった。 教職課程の3年生と希望する学生を対象に、12月に秋田県教育委員会の教育次長を招聘し、望ましい養護教諭の在り方や教員採用試験に対する特別講座を実施している。 本学教職課程の教員が、教職課程の3年生、同4年生、教職科目を受講している2年生と1年生に対して、教職面談を行っている。 採用試験後に、試験内容について報告カードを提出させ、採用試験情報として一覧に整理している。

4. 長所・特色

現状説明の記述を踏まえて、それぞれの項目ごとに、大学として特に取り上げるべき「長所・特色」を記述する。
望ましい養護教諭の育成について、秋田県教育委員会と本学の教職課程専門委員会の教員とで、密接に連携をしている。秋田県教育委員会の要望を受け止め、教職課程の学生に対する指導に役立てている。

5. 問題点

自己点検・評価の結果、浮かび上がった問題を「現状説明」を踏まえて、それぞれの事項ごとに記述する。
【課題】 ・教職課程が設置されて6年目、1期生、2期生が養護教諭の資格を取得しているが、看護師を経てから養護教諭を目指すという学生が増えてきている。 ・学生交流会がやむを得ない事情で開催できない場合は、予備日を設けるなどの対応を考えておく。 【目標】 ・養護教諭が学校教育現場における重要なポジションであること、養護教諭の魅力・やりがいを養成課程でも十分に伝え、望ましい養護教諭を育んでいきたい。

6. 全体のまとめ

「教育理念・学修目標」や「授業科目・教育課程の編成実施」といった単位ごとに全体のまとめを記述する。
秋田県教育委員会や県内の各市町村教育委員会との関係性もよく、本学との信頼関係が築けている。本学の特徴である看護の強みを生かした養護教諭の育成に一層取り組んでいきたい。

7. 根拠資料

NO	区分	名称
1	（1）、（2）、（3）	教職課程専門委員会議事録
2	（1）、（2）、（3）	履修カルテ
3	（3）	教員採用試験報告カード
4		
5		

日本赤十字秋田看護大学

担当
教職課程専門委員会

⑦	関係機関等との連携

1. 自己点検・評価

(評価区分)S:取り組みが卓越した水準である。 A:取り組みが概ね適切である。 B:課題があり努力が必要である。C:抜本的な改善が求められる。 D:取り組みがなされていない。 ※該当しない項目については(ー)ハイフン

［大学全体レベル］

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	教育・ 委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	①教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか	S
(2)	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	①教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか	A
		②学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか	A
(3)	学外の多様な人材の活用状況	①学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができているか	S

2. 前年度に指摘した問題点

令和4年度自己点検・評価報告書に記載した次年度に向けた課題を記述する。
教職課程の履修出願・選考日程があげられる。3年生の6月下旬の実習受け入れについて、当該学生が2年生の11月の時点で管轄する市町村教育委員会に出向き、文書による正式なお願いが3月末となっている。もっと早い段階でできないかと市町村教育委員会より要望がある。 実習において毎週一度の指導機会については、実習受け入れ校における管理職や実習生の指導教官である養護教諭にとって、負担となっている側面もうかがえる。

3. 現状説明

点検・評価項目ごとに、令和5年度の現状(目標設定やその達成のための取り組みを含む)を記述する。	
(1)	毎年5月、秋田県・市教育委員会や秋田県教育庁中央教育事務所、並びに、秋田県・市小学校長会、秋田県・市中学校長会に対し、毎年5月に訪問し、各関係期間との連携を深めている。また、11月には、秋田県県教育委員会並びに、秋田市教育委員会を訪問し、各地域の教育課題を伺い、学生への指導に役立てている。
(2)	これまでの課題であった実習依頼時期を2年生の3月から、2年生の11月に早め、市町村教育委員会や各学校からの要望に応えた。実習期間中において、本学の指導教員が各実習校を訪問し、適切に連携・協力を図っている。校長または教頭の管理職へ挨拶を行い、実習指導教官である現場の養護教諭と情報交換を行い、実習生へ指導している。
(3)	教員採用試験に係る特別講座として、12月、秋田県教育委員会教育次長や、本学の卒業生である現場の養護教諭を講師として招聘し、学生の資質能力の向上につなげている。また、教職実践演習において、特別支援学校へのフィールドワークを行うとともに、現場の養護教諭を特別講座の講師にお願いするなどして、教育課程の充実に努めている。

4. 長所・特色

現状説明の記述を踏まえて、それぞれの項目ごとに、大学として特に取り上げるべき「長所・特色」を記述する。
実習期間中は、全ての実習生に対して、各小・中学校に一度は本学教員が訪問し、実習生への指導と実習校との連携に努めている。学生にとっての悩みや要望、各実習校のご意見等を丁寧に受け止め、連携・交流に生かしている。

5. 問題点

自己点検・評価の結果、浮かび上がった問題を「現状説明」を踏まえて、それぞれの事項ごとに記述する。
【課題】 教員採用支援対策は奏功し、教員採用試験の得点は年々向上してきている。しかし、定年延長や再任用制度により、教員の新規採用数の募集定員が年々少なくなってきており、採用状況は厳しくなってきている。 【目標】 秋田県教育委員会の幹部をはじめとする人事担当者に対して、機会あるごとに本学の教育について発信し理解を得るとともに、県教育委員会との連携強化に努め、教員採用試験の実績の向上につなげていく。

6. 全体のまとめ

「教育理念・学修目標」や「授業科目・教育課程の編成実施」といった単位ごとに全体のまとめを記述する。
本学教員について、教員免許状所持はもちろんのこと、現場における管理職としての指導経験、教育委員会勤務、養護教諭としての実務経験等、豊かな実務経験のもと、県市教育委員会や学校教育現場とよりよい関係性を築くことができている。このことは、教育理念・学修目標を達成させる上で大きなアドバンテージとなっている。今後においてもこの関係性を豊かに築いていきたいと考える。

日本赤十字秋田看護大学

7. 根拠資料

NO	区分	名称
1	(1)、(2)、(3)	教職課程専門委員会議事録
2	(3)	特別講座振り返り、同御礼状
3		
4		
5		